

令和2年度 奈良県コミュニティ・スクール連絡会 実施報告書

- 1 日時 令和2年11月30日(月) 13:30~16:30
- 2 会場 桜井市立図書館 研修室1, 2, 3
- 3 参加者 学校運営協議会を設置している県内公立小・中・義務教育学校等の管理職、地域連携担当教職員 計 35名
- 4 内容 13:30~13:35 開会
 13:35~13:40 趣旨説明
 13:40~14:50 講演「目の前にいる子どもの明日を考える～CSの具体的な実践と展開を通して～」
 滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」推進協議会 座長 宮治 一幸
 15:00~16:25 テーマ別の情報交換・意見交流
 16:25~16:30 閉会

5 講演概要

宮治先生が、コミュニティ・スクール設置校に学校長として就任された時の使命感や想い、そして、コミュニティ・スクールを導入している学校として、何を大切にしていけるかについてCSの具体的な実践と展開を基に講演いただいた。

- ・ コミュニティ・スクールのお話をすると、学校運営協議会を立ち上げて何がプラスになったかと参加者から質問されるが、コミュニティ・スクールを導入したからプラスが出てくるとか、何も変わらないとか、そういうものではないと思う。結局は、学校運営協議会を活用して、子どもたちの課題に、或いは、私たちの力量に、少しでもプラスになるようにやっていくことが大事であると考えている。
- ・ 岩根小学校では、年間5～6回の学校運営協議会をするが、コロコロと議題が変わるようでは、1つのことを合議することは難しいと思い、議論を積み重ねていけるよう「1年1熟議」にして、年度末に何らかの方向性を出せるようにした。
- ・ 学校運営協議会を開く1週間前ぐらいに校長、理事長、事務局長、コーディネーターの4人で集まり、その日に協議をする内容を共通理解して議案を決めた。



	テーマ	熟議の結果
1年目	「しんどい子どもたちへの学習支援のあり方」	「土曜教室」の誕生
2年目	「経済的な自立に向けて」	「支援委員会」の設立
3年目	「学校運営協議会自体の活性化」を目指して	理事の役割分担制度の導入
4年目	「学校を核とした地域づくり」のために	「歴史の部屋」の設置

- ・ 地域を知るために、学校の代表としていかに地域に足を運ぶかを大事に考えている。無理のない程度に自分ができることは何だろうと考え、学校運営協議会や行事(入学式、卒業式等)の案内文書を自分で配るようにしていた。
- ・ 石部中学校では、CSで育まれた校区2校の小学生が中学生となって、地域にどんな貢献が可能なかを求めていこうと考え、コミュニティ・スクールを導入する中心に据えて準備を進めていった。
- ・ コミュニティ・スクールというのは、あくまでも1つの手段である。それを活用して、いかに運用していくのか。周りの同じコミュニティ・スクール校を、参考にすることはあっても、気にすることはないと思う。何か迷われた時には、自分の学校でコミュニティ・スクールを採用したスタートの思いに立ち返っていただきたいと思う。
- ・ 地域学校協働活動と学校運営協議会制度を両輪のごとく活用していくことで、「地域と共にある学校づくり」の目標に少しでも近づいていくことができるのではないかと、私の経験で得たことである。

6 情報交換・意見交流

「目の前の子どもに視点を注ぐ」「持続可能な仕組みづくり」「地域学校協働活動との一体的推進」の3つのテーマに分かれ、各校の現状について情報交換し、CSを展開していく中の課題について意見交流を行った。

各校からの様々な現状や課題を情報共有した上で、各校の悩みや課題に対してCSアドバイザー等からの助言が行われた。参加者にとっては、各校で学校運営協議会を設置した効果や機能について点検する機会となった。

7 感想

- ・ 今後やっていこうというヒントが得られた。事務局制、1年1熟議、児童会・生徒会と学校運営協議会との連携等は、すぐに実践できると思った。
- ・ 具体的な事例と押さえるべきポイントを示していただき、よくわかった。1年目、2年目・・・4年目と段階を追って積み重ねることと、より具体的に取り組んでいくことの大切さがわかった。
- ・ 自校を頭に思い浮かべながらお話を伺った。自分がやったこと、やっていないこと、やるべきことがとてもよくわかった。

